

南アルプス市立豊小学校

令和7年度後期学校関係者評価書

令和8年1月26日

豊小学校学校関係者評価委員会

委員長 津久井 豊徳



【第2回学校関係者評価委員会】

1 実施日 令和8年1月23日

2 会場 豊小学校相談室

3 参加者

(1) 学校関係者評価委員

No.	氏名	役職	備考
1	五味 良一	豊地区自治会会長	
2	梅本 澄雄	元本校校長	都合により当欠席
3	津久井 豊徳	豊地区教育振興会会長・元校長（楡形中学校）	委員長
4	築野 一彦	小中一貫教育推進協議会委員・元校長（白根百田小）	副委員長
5	吹野 武文	元豊地区主任児童委員	
6	竹野 元木	PTA会長（保護者代表）	

(2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職	備考
1	井上 武人	校長	本校在籍3年目
2	福井 初美	教頭	本校在籍2年目／事務局
3	相田 由希子	教務主任	本校在籍6年目

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による後期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する後期前期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 豊小学校後期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校後期自己評価書に対する考察

（教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証）

→学校の意見 ・学校評議委員の意見

(1) 学校経営・組織について

→7項目全てにおいて肯定的評価が90%を超えている、また、平均値においても5項目で前期より上昇し

ていることから、教職員全員が一丸となって学校教育目標の実現に向かって学校運営に参画している状態であるといえる。「危機管理(防犯・防災・事故等)マニュアルを理解し、指導しているか」と「校内研究に主体的に関わっているか。」のA評価が40%台で低い。避難訓練は今年度防犯を取り入れて昨年より1回増やした。訓練はしているが本番に対応できるかという不安の表れだと思われる。また、校内研究は今年度中北事務所管内小学校初任者研修実習校の指定を受けており、各ブロックで研究授業を行った。研究主任中心に情報共有を行い教職員全体の学びとなった。研究に関わる立場の違いからA評価は低めだが、平均値の上昇は見られたのではないかと思われる。

- ・学校目標の具現化について、全職員一丸となって進められていて素晴らしいと思う。

(2) 学習指導について

→6項目全てにおいて肯定的評価が90%を超えている。この結果からICTの活用、めあての提示、言語活動の実践、評価という“山梨スタンダード”を意識した一連の授業展開を念頭に置いた実践が定着しているといえる。読書活動について2学期は読書まつりを通して読書を推進する活動を行ったが下降が見られた。調べ学習などでパソコンを活用する場面が増え、本の活用が減ってしまった実態もある。家庭学習は授業と有機的に結びついている家庭学習を進めているが、個別対応の必要性を感じている教職員も多い。児童の状況を考慮しつつ、指導と家庭学習の好循環を目指したい。

- ・授業の中で子供たちに自分の頭で考え、自分の頭で表現することをこれからも要求してほしいと思う。ただどしくても「自分はこう考える」という主体的な意見を持たせたい。
- ・授業を通して子供たちがとらえたことを文章で表現させることも取り立てて行うことも大切だと思う。
- ・ICTの活用方法を一層工夫して児童の主体的・能動的活動を進めてほしい。
- ・一人一台端末が用意され、ICTの進化をめざしたが近年その弊害が見られてきた。自分の手で書かないことで漢字が覚えられない、これまでは自分で本を読んで調べていたが、今はコンピューターですぐに出てくる、夏休みの感想文はAIでするなどの話もある。コンピューターを使いすぎともいわれる。どの程度コンピューターを使えばいいのか。何でもかんでもコンピューターを使えばいいというわけではない。どう使えばいいかこれからは考える必要がある。
- ・電車に乗ったら座っている人みんなスマホを眺めていた。社会がみんなそんな雰囲気になっていて人との交流もない。本当にあれでいいのかと思う。子供と対応するとか、書くとか実際にやることはとても大切である。

→学校では管理職と教職員で面談をするのだが、そこでも同じ話が多数出た。書かせることは大事だから、ICTは使うけれども書くこともしっかりとやってほしいと教職員に伝えた。

- ・弊害があることも意識しながら進めていくことが大事であると思う。
- ・時代が変わる中で変わっていいものと変わってはいけないものがあるような気がする。手を出せば水が出る水道は便利だが、学校は基本的に蛇口をひねって開けて水を出す方がいいような気がする。近代化が進む中で児童には多少の不自由さを経験して育ててほしい。
- ・大学生でライターを使用してストーブをつけられない、マッチが擦れないということがあった。小学校という子どもの性格の根本を司る教育機関の中でそういったところから見直してやっていかなければならないのかなと思う。家はどんどんオール電化になっていく。そうすると灯油ひとつ入れられない人間になる。

(3) 生徒指導・生活指導について

→5項目とも肯定的評価が100%であった。普段から教職員が児童理解、生徒指導、いじめなどの早期発見に向けて高い意識で取り組んでいることが分かる。「いじめ対策委員会」「特別支援校内委員会」「ケース会議」など有機的に機能させチームとして全職員で指導支援していけるようにしている。あいさつについて課題と考えている教職員が多い。児童自身も肯定的評価80%以上であるが、否定的評価も増えてきている。規範意識や道徳性を育む指導も大切である。「豊小のきまり」を今見直している。全教職員が足並みをそろえ、一貫性のある指導・支援を行っていききたい。

- ・豊小の児童はあいさつをしている。低学年で恥ずかしそうにする子もいるがあいさつしている。お母さんと離れるとき、「おかあさん、しごとがんばってね」と言っている児童もいた。先生方も気持ちよくあいさつをしている。親や先生方があいさつする姿を見て、児童は自然に気持ちよくあいさつできるよう

になるのではないか。

- ・校門の前ではするが、旗振りをしているとそこではしないという話もよく聞く。あいさつについて各家庭でどういう風に教えているのか。保護者アンケートであいさつをしている 100%と出ているが、それぞれの家であいさつの仕方もちがう。その人は「やっている」というが、みんなから見たら「やっていない」というものもある。あいさつの意味を理解できていない親がいると思う。実際その説明をするのも難しい。地域コミュニティーが希薄になってきている今、親に対する教えが必要になる時代になってきている。高橋史朗「親学」では親が親として足りていない部分、親の教育が必要になってくる時代が来ている。

(4) 保護者・地域との連携について

- 「おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」は 100%の肯定的評価、「地域人材の活用」は 91%の肯定的評価であった。今年度は講師として地域人材を招聘し学習を深める時間が増えたり、学校ボランティアの募集により校外学習に同行していただいたりなど昨年度以上の地域人材の活用を図れた。学年間での活用の差が見られたので、今後更に活用の場を増やしたい。
- ・学校ボランティアで協力していただくことがよい学びの環境づくりになっている。地域の方に入ってきていただくのは本当にありがたい。
- ・学校運営協議会が設置されたら、学校に「ああやってほしい、こうやってほしい」というのではなくこれからはボランティアを差し出すことが大切。この地域にこういう人がいるからと情報提供したり、「こういう仕事はこういう人ができるよ。」など、例えば「プールの監視は1時間くらい見ているよ。」など人材をうまく学校へ提供したりするようにしていきたい。
- ・学校をみんなでよくしよう、地域みんなで学校をつくっていききたい。

(5) 小中一貫教育について

- 「対話を意識した学びあいを授業に取り入れる」「深い学びになるよう課題や発問の工夫」「『Simple』プログラムの目的意識を理解した指導」の3項目とも肯定的評価は90%を超えていた。橿形中学校区小中一貫校としての取組を教職員が理解し、活動が定着してきたということが言える。これら大きな指針が日々の授業改善を支える確かな基盤となっている。
- ・めあてについて、めあてを書けばいいというものではない。書いたことで達成ではないと思う。もっと深いところで、めあてを達成できるようにどう授業を進めていくかが大事。授業によってはめあてをかけない場合もある。(例えば道徳で価値項目をそのまま記述できない、算数で方程式を初めて学ぶとき方程式を…とは書けない。)
- ・学校現場では地域と共に歩む学校づくりが進められているが、義務教育9年間の中で小中一貫した教育方針のもとに効果的で豊かな深い学びを求め、各学校も地域も意見を出し合い協働していくことや学校教育を通してよりよい社会を創るという理念で学校づくりの目標やビジョンを学校内に閉じ込めず、一層地域との垣根を低くして信頼関係のもとに、地域と一体となり子供を育む学校づくりを地域の実態に応じて果敢に取り組んでほしい。

(6) その他

- 「民主的で規律ある学級集団づくり」「諸表簿や文書、記録媒体の管理」については肯定的評価 100%であった。学級担任は常に民主的で規律ある学級を意識して学級経営を行っている。諸表簿・文書管理も適切に保管処理されるよう常に声を掛けている。「働き方改革」は学校行事等の見直し、校務分掌の分担を行い一人に負担が行かないような工夫がされている。家庭での時間も大切にしよう声をかけ研修後は直帰、木曜日は6時半退勤を目指している。
- ・生きた学力の向上、教職員の職務の多忙化問題などこれからも改善すべき課題は尽きないが、教職員の皆さんを応援していきたい。

(7) 児童アンケート結果から

- 「学校生活」については全ての項目が肯定的評価 90%以上で満足できる状態であった。しかし、「学校は楽しい」にDと回答している児童3名、「相談できる友達がいる」にDと回答している児童20名、「相談できる先生がいる」にDと回答している21名に目を向けていかなければならない。学習面・生活面で取り

残される児童がいないように手立てを講じる必要がある。

- 「確かな学力」については「学校の授業が分かる」で 95%の児童が理解していると回答した。「授業中に自分の考えを伝えている」が前期に比べ肯定的評価が減り、粗点も 2.95 であり唯一 2 点台の項目となった。授業の様子で発言する児童が偏っている現状もあるので、全児童が自らの考えを言語化できるよう授業の中に表現の機会を構造的に組み込む等の工夫を取り入れていきたい。
- 「豊かな心」については「当番活動」「靴揃え」「気持ちのよい言葉づかい」の 3 項目において肯定的評価が 90%を超えていた。「無言清掃」「あいさつ」については評価の下降が見られる。教職員評価ともつながるが、「本を読んでいる」が改善の余地がある結果となった。今後意識して取り組む必要がある。「家の人に学校の様子を話す」も改善が必要であるという評価となった。PTA 学年部会や保護者との学習の機会、学校・学級通信などにおいて啓発活動を進めていく必要がある。
- 「健やかな体」では「早寝早起き」の否定的評価が 16.5%であった。家庭生活での時間の使い方、ゲームの占める割合が関係していると思われる。また、朝ごはんを食べてこない児童もいる。家庭状況を把握し、保護者支援も必要である。
- 携帯・スマートフォンの所持率が高学年に上がるにつれて増える傾向にある。今年度、教育を語る会で保護者に向けての SNS の話、4, 5, 6 年生対象に「SNS の正しい使い方」の学習会を行った。その結果家庭内でのルールづくりについて、肯定的評価が上昇した。教職員は指導力を高め、引き続き啓発活動を行っていく必要がある。
- ・ 授業の中で子供たちは「手抜き」を見逃さないとと思う。教材研究の不足、準備の時間切れなど、こちらの事情で少し省略して先に進もうとすると、子供たちは「へんだね」とストップをかけると思う。子供に納得のいく授業は物理的にも精神的にもエネルギーを要する仕事ですが、子供たちと対峙して意欲的に児童と向き合っている様子が児童アンケートで読み取れる。これからも教職員一つになって継続してください。

(8) 保護者アンケート結果から

- ・ 親の教育も必要。「自転車を買った時と、ゲームを買った時と、スマホを買った時、お金を出すのは親で指導をするのは学校のように考えることがある。自転車を買ったら身近な地域を親と一緒に見て教えるべき。事故にあった時、「学校はどういう指導をしたのか」と言われるのはちがうと思う。ゲームもスマホも同じ。買う前に使い方やきまりを決めないとだめ。親は金を出して買うのですが面倒なことは「学校でおねがいします。」では困る。今回スマホの学習会をしたことでルールを決めた家庭が増えたがあったが、家庭への啓発がやはり必要なのだと思う。
 - ・ 箸の持ち方ができなくて「学校は給食の時にどう指導しているのか」と言ってきたという親がいた。すべて学校に任せるから先生方が忙しくなる。家庭で教えるべきことは教えてほしい。
 - ・ 保護者アンケートを見ると厳しいのもあるけれど感謝しているのもいっぱいある。
 - ・ 例えば「先生に決めつけたように言われて…」なんていうのは教師も意識しながら指導する必要がある。
 - ・ 私たちは日頃「教育・とりわけ子供たちをどれだけ大切にしているか」という物差しで学校を見ている。物価高や経済格差で社会的弱者が差別されている人たちをどの地域でも抱えている矛盾の中で、子供たちの笑顔のために日夜実践している教職員の姿が保護者アンケートから伝わった。
 - ・ デジタル化する社会変革などに対応する保護者も付いていくのが大変だと思う。保護者の生の声を拾い上げ活かしていく活動を今後も願う。
- 学校に要望をいただくことはあるけれど、やっぱりできることとできないことがあるので、なるべくできる方法を考えて折り合いをつけていく姿勢は忘れないようにしている。